

心が潤う30分テレビ番組

ライフ・ライン

HBC テレビ 毎日曜日あさ5:00~5:30

8月19日(日)



「片手牧師奮闘記」

テレビ全国放送!

十勝キリストリバイバル教会の仁田義勝牧師は、24歳の時、農作業中の不慮の事故により片腕を失う。失意の中、入院生活の中でキリスト教会に導かれ、キリスト信仰を持つ。退院後農作業に従事し、絶望困難の中にも、神（イエス・キリスト）の助けにより営農を続け、1996年離農後、神の導きにより、ハワイで牧師按手礼を受ける。2000年に現在の場所、帯広市南の森にてキリスト教会を始め、また、広野においてもアスパラ収穫観光農園「アスパラランド」というユニークな方法で農園を開園、経営する。個人、団体ツアーを年間500名近くの人を受け入れ、食育講座を通し「いのち&健康」の大切さを語る。収穫体験では感動と喜びをじかに体験していただいている。

将来は宅地、農地を利用してのキリスト教理念を柱に、心身障害・高齢者の生きがいと希望の施設を目指している。

現在教会の牧師と観光農園の仕事に奮闘中。発想とバイタリティあふれる行動は周囲を驚かしている。今後の活躍に注目したい！

チャペル通信

特別号

発行

十勝キリストリバイバル教会

〒080-0862

帯広市南の森西4丁目5-19

☎0155-49-3731

lovetokachi@ybb.ne.jp

テレホンメッセージ

3分間の心のホットライン

0155-47-2215

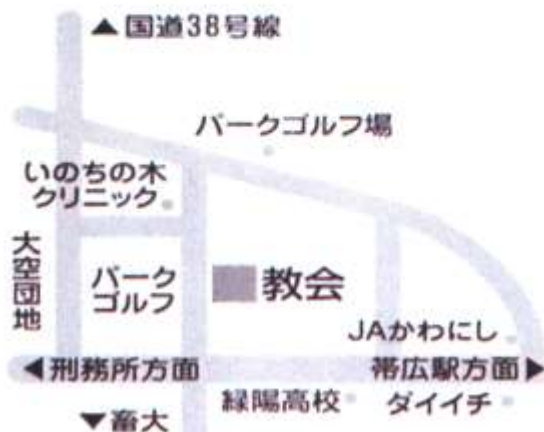
24時間いつでも聞けます!

すべて、疲れた人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。イエス・キリスト

◎相談・カウンセリング

信仰・宗教・教育・結婚生活などでお悩みの方、ご相談に応じております。(無料・電話予約要)

◎ご希望の方には新約聖書を無料で差し上げております。お気軽に教会までご連絡ください。



十勝キリストリバイバル教会仁田義勝牧師へのインタビュー

—牧師が事故で右手を失った時の事をお聞かせください。—

はい。今でも鮮明に当時を思い出す事ができます。

その日は入院していた祖父が退院する日でした。その朝、テレビの上に飾っていた、私の組み立てた戦艦の上に、額縁が落ちてバラバラに壊れてしまったのです。心配性の母は、祖父を病院に迎えに行く父に、胸騒ぎがするから運転にはくれぐれも気を付けてと何度も言っておりました。私は近くの農家より牛の糞尿を吸い取る機械バキュームカーを借りて仕事をしておりました。当時の機械はシャフト類に安全カバー等が付いておらず、むき出しのシャフトがトラクターの動力(PTO)により2000回転の高速で真空状態にして汲み上げるのです。シャフトの付け根の上にも別の汲み上げホースが差込口に着いているのですが、作業を始めてから何分か過ぎたでしょうか、突然ホースが差込口から外れ、これは大変とホースを差込口に挿した瞬間、その真下で高速回転しているシャフトにツナギの作業服の袖が絡まり一気に右腕を持っていかれたのでした。

自分でも不思議なのですが、気絶もせず、これ以上身体が持っていないように膝に力を入れて踏ん張っていました。もし、そうしていなかったなら、私の腹の下ではシャフトが高速で回転していたので、腹がえぐられ内臓が飛び出し、簡単に死んでいたことでしょう。

目の前にはバラバラになった指や、肉片、腕時計、内ポケットに入っていた免許証が散らばり、また、肉の焦げたにおいが漂っていました。

「おかあさん。おかあさん。」と大声で助けを求めましたが、トラクターの音でかき消され、数十メートルと離れている家には聞こえ

るはずもありません。しかし、台所に立っていた母には、何かか細い猫の鳴き声のような私の声がかすかに聞こえたそうです。母はその声を確認するために外に出て、私の方に近づいて来ました。しかし、肩から血を流し、うずくまっている私を見たたん、気が動転し、「どうして! どうしてこんなことになったの!」と叫ぶばかり。トラクターのエンジンを止めてと母に叫ぶのですが、一度もトラクターを触ったこともない母には無理な話。母はエンジン音よりも大きく感じるほどの叫び声をあげながら、そのまま家に入ってしまいました。

母の立ち去る足音を耳にしながら、私は膝に力を入れ立ちあがりました。そのような状態でも不思議にすつと立ち上がることができました。自分でエンジンを切り、やつのことであら下がついている右手を持ち上げ、錯乱状態になって泣いている母を横目に、自分で電話のダイヤルを回し、救急車を呼んでいました。

今不思議に思うのは、なぜ、気弱な私が、あの様な中で、冷静に状況を判断し行動できたのかということ。それは、そこに真の神が私を守り助けてくださったと言わなければなりません。ハレルヤ!

その後、入院生活のなかで、教会に導かれ、イエス・キリストを信じたのです。

—片手を失ってしまうという大事故を通して、真の創造者なる神、イエス・キリストを信じたのですね!

これからも多くの方にこの証しが語られ、真の神が用意されております救いを受けられるようにお祈りしています。今日はお忙しい時間ありがとうございます。—

